

保育理念を実践に展開する方法（続報） ～保育理念を基にしたアセスメントシート を導入した園の変化～

How to put the childcare philosophy into practice (vol.2)
-Change of kindergarten by assessment sheet based
on the childcare philosophy-

山田眞理子
子どもと保育研究所ぶろほ

要約

どの園にも、保育理念・保育方針というものがあって保育の実践がなされている。しかし、日常の保育において、その理念が意識されている園はあまりないのでなかろうか？

筆者はそこに、理念を基にしたアセスメントシートを導入することによって、理念が実践に展開されてゆくことを昨年の論文で提案し、その予備研究の結果を発表した。(1)

アセスメントシートを毎日チェックすることで、保育者は自分の日常の関わりを、理念を基盤にして考えるようになり、子どもへの関わりを考えるとき「理念にあっているかどうか」を基準にするようになつていった。また、子どもへの関わりを話し合う中でも「理念」という共通了解が得られ、職員会議がスムーズかつ実り多くなったということだった。本稿では、さらに、アセスメントシートを年間にわたって導入し、園の行事に活かして積み重ねた実践を紹介し、その園の理念（まことの保育）と照らし合わせて考察したいと思う。

Abstract

Every kindergarten and/or nursery school has a childcare philosophy and childcare policy, and its childcare is practiced with the philosophy and policy. At the same time, it's doubtful if the philosophy and policy is always on conscious in their daily childcare.

In the last paper I made "Childcare practice assessment sheet based on the philosophy" as a way to put the philosophy into practice. By writing the sheet and checking it at the end of each day, childminders can look back on their childcare practice and understand their philosophy both in their mind and body.

It results that childminders have come to think about their daily involvement based on their philosophy, and think their practice according to the idea if it is on the philosophy as a standard, when discussing the involvement to children. In addition, while discussing the relationship with children, a common understanding of "the childcare philosophy" has been gained, and it makes staff discussion enrich and smooth.

This paper is to report the yearly practice of K-kindergarten.

1. はじめに

(1) 園の保育理念の実践への展開

保育園・幼稚園・こども園においてはどの園も文章化された保育理念や保育方針を持っている。

どの園においてもその園で実施される保育・教育の基本として十分に考え抜かれた文章になつていてもかかわらず、日常でその理念に接することはほとんどなく、その理念を実践に結びつけるための研究も深められていないのが現状であろう。そして、理念に基づいてその園の日常の保育は実践されているはずであるが、その実践が理念にあつたものであるかどうかを保育現場において日常的に振り返る園も少ないのもかもしれない。実際に

に、保育理念そのものに関する研究は論文検索サイトによると51件と少ない。そして、キリスト教系と仏教系の保育理念の宗教性の比較や一園の保育者の実践、海外の保育理念の紹介といつたものにとどまっている。^{4) 5) 6)} しかもも保育理念はそれぞれの園に独自のものであり、その理念が実践されているかどうかは、他園と比較することはできない。

昨年筆者は、どの園にも応用可能な方法論としてアセスメントシートを提案し、協力園の実践からその効果が保育者・保育内容とともに十分に認められることを検証した。

さらに、本研究ではそのアセスメントシートを基に自分たちの保育を振り返るという実践を1年間続けた園の実践報告を基に「保育理念を実践に展開するためのアセスメントシート」の意義を明らかにしたい。

日々の保育の中で理念や目標（子ども主体、子どもの健全な育ちなど）を見失い、手段（保育方法や技術、行事）が目的化することは多くみられる。しかし、理念・目標を見失った結果として、本来の目標にたどり着けなくなることもまた増えることになる。逆に考えれば、理念や目標を見失わない方法を得れば、日々の保育を理念・目標と結び付けて考える習慣を身につけるということになる。本研究は、そこにアセスメントシートという形を導入したものである。

(2) アセスメントシートの導入

本稿で取り上げているアセスメントシートは、東日本大震災での学校管理下の最大の悲劇となつた石巻市立大川小学校の事故を長期にわたって質的分析して上梓した「クリティカルアセスメントの本質」²⁾の中で、教育委員会や第三者委員会に対して提起しているリスクアセスメントシートを参考している。リスクアセスメントにおいては、これらの項目に無記名でチェックを行い、チェックが多いほどリスクが高いと判断される。

組織（園や学校）は理念をもつて生まれ、その理念を達成することを目標としたものである。そして、その組織はそれを実現するための方法によって運営される。しかし、時としてこの方法（組織を持続すること、保育方法を実践すること）が目的化され、本来の「子どもたちをいかに生きる存在にしたいのか」という理念が置き忘れられることは少なくない。方法が目的化することは、組織の根本にかかわることである。^{2), 3)}筆者はこれを、「園の理念が形骸化しているほど、園の実践は理念から離れたものになる」と考え、園の理念を日常的に組織内でチェックできる方法への応用開発を試みた。

リスクアセスメントシートを参考にし、評価者（保育者）がより高得点に向かおうとする自身の意図を引き出すために、チェックだけでなく5段階評価とした。アセスメントの各項目は各園の理念の文言から20文字程度の短文にし、チェックしやすいように工夫するワークショップから始まる。理念や方針は各園で異なることから、アセスメントシートの項目も園ごとに異なり、園の理念によつては、短い項目にしにくいものや理念の言葉の意味を話し合うことに多くの時間を使う園もある。

(3) 研修プログラムの組み立て

本稿の取り組みは以下のプログラムで行われた。

- ①アセスメントシートの構造を理解する。
- ②園の理念（保育方針）からアセスメントシートの項目を作成する。

- ③毎日、アセスメントシートを退勤時にチェックして提出する。
- ④アセスメントシートにチェックしにくい項目があれば、項目を再検討する
- ⑤一定期間（1か月）チェックを��け、同じクラスの変化、同一人の変化などをグラフ化して、園内研修を行う。
- ⑥園内研修によって、アセスメントシートの評価点を基にこれまでの保育を振り返り、必要であればアセスメント項目の変更を行う。

2. 研究方法

本稿で取り上げるK幼稚園においては、上記の研修プログラムにおける「理念を実践に展開するワークショップ」を、理念を読み解くことから1年間をかけて実践した。本稿では、その実践の中で保育者が気づいたことや保育自体の変化を、研究集会での発表から抜粋して考察する。ちなみに筆者はこの園の助言指導を依頼され、2021年8月からアセスメントシートを導入し、2022年7月の発表までの助言指導をしている。

(1) 第1回ミーティング：アセスメントシートの項目作成

K幼稚園のパンフレット等から、園の保育理念は子どもたちと共に唱える「ちかいのことば」にあると考え、「ちかいのことば」をアセスメントシートの項目にするために、2グループに分かれて話し合った。

「ちかいのことば」は、
私の子は ①素直にみ教えを聞きます
②必ず約束を守ります
③いつも本当のことを言います
④ニコニコ仕事をいたします
⑤やさしい心を忘れません

その話し合いの中で、このちかいは子どもたちだけではなく、保育者もちかう言葉であることに気づき、保育者自身が日常の保育をこの「まごとの保育」の理念に沿っているかを検証することとした。

表1 K幼稚園のアセスメントシート

チェック項目	①全くそうではない 改善点	②あまりそうではない	③少しそうだった	④かなりそうだった	⑤とてもそうだった
子供達の話をきちんと聞きましたか					
今日、言い訳・偽りなく過ごせましたか					
安心して本音の言えるあなたでしたか					
笑顔を施やさず仕事をしましたか					
穏やかな気持ちで優しく接しましたか					
友達同士の色々な繋がりを大切にしましたか					
友達同士の色々な繋がりを大切にしましたか					
子供の自己肯定感を高める工夫をしましたか					
一人一人の話を聞きましたか					

2グループで話し合って、ちかいのことばを終業時のチェック項目に落とし込むと、グループによってその考え方や、チェック項目への落とし方が異なることに気づいた。これは、この後の項目の改良に際して活かされることになる。(幼稚園のシートの文言及び報告の斜字部分は原文のまま)

Aグループ	Bグループ
・言い訳、偽りなく過ごせましたか	・み仏さまを思い浮かべていますか (み仏さまに見守られ、大事にされている自分がいることを感じる)
・安心して本音の言えるあなたでしたか	・保育者自身が穏やかに過ごしましたか
・子供の話を聞きましたか	・目を見て「ありがとうございます」をたくさん言えましたか
・友達同士の色々なつながりを大切にしましたか	・笑顔で挨拶できましたか
・落ち着いて穏やかに過ごしましたか	・一人一人の話を聞きましたか
・笑顔で仕事をしましたか	

1か月後の保育者の感想は以下のようなもので、その効果が徐々に保育者に伝わったと感じられた。

・初めは、自分の保育をどう評価しているのか戸惑ったり、基準点をどこにするかがそれぞれの保育者で違っていたりと、スマーズでなかった場面もあったが、その都度、助言者とZoomミーティングをしながら前に進んでいった。

・保育の終了後にアセスメントシートをチェックする毎日の中で、次第に保育者の頭の中にこれら項目がいつまでも浮かぶようになります。」と考えるようになっていました。それだけでなく、チェックすることで自分の保育を振り返り、さらに高い評価をつけられる保育を自ら考える基盤になつていった。

以下、実践の中での事例をいくつかF教諭の実践報告から転載させていただく。(斜字部分がF教諭の記録)

(2) 実践事例 1

1人の男児が、なぜか反抗的な態度をとるようになつた。今までしていきたことも、「しない！」と言つたり、興味のないことや苦手意識のある活動をする時に反抗的な言葉を使つたりするようになつた。
なぜ？あの手この手で促しても、「せん！」「がんばらん！」の一点張り。1日に何回もこのやりとりがあり、自信を失くしかけていた。
そんな時に、《アセスマントシート》に出会つた。
例えば、

Y男「練習頑張らん！」保育者「頑張らんと（自由遊びの）粘土が出来んよ」
Y男「トイレ行かん！」保育者「行かんと漏れるよ」
Y男「お茶飲まん！」保育者「お茶飲まんと倒れちゃうから飲んで」
Y男「靴下脱がん！」保育者「脱がんと滑つて転ぶよ…」（体操教室）
というやりとりを、アセスマントシートでチェックしてみて驚いた。

この日のアセスマントシートが図1左のアセスマントシートである。ほとんどの項目で保育者自身が自分のしたことに低い評価点をつけざるを得なかつたことになつた。

Y男の「できない」「したくない」の反抗に対して、無理矢理させようとする言葉ばかりを返していたことには気づいた。「なんでしないの？」「できるでしょ？」「わがままだなあ…」という気持ちの表れたつかのかもしれない。

Y男はどうしても反抗するのだろう、もしかしたら、今までちゃんとY男に寄り添うことができなかつたのかもしないと考え。本人の話してくれることを丁寧に聞き、もう少し言葉かけをたくさんして、コミュニケーションをはかり、Y男の思いに気づきたいなと思った。

そこで別の日、「丁寧に話を聞く」に心がけて、Y男に関わるよう心がけた。

Y男「Y、糊嫌いやけ、作るのせん！頑張らん」（やつぱりね・・・）
保育者「分かった。しなくてもいいよ。糊嫌いなんやね。どうして嫌いなの？」

Y男「だって、気持ち悪いもん」
保育者「そっかあ…気持ち悪いんだね。しなくていいよ。今日は先生と一緒に作つてみる？」
Y男「うん」
保育者「糊は先生するね、糊付けたの貼つてくれる？」
Y男「うん、する（貼ること）」
保育者「見て見て！ぶるぶるしてて、ゼリーみたいだよ！」（糊を触りながら大げさに）

Y男：保育者が触るのをじっと見ている

その全やりとりと考察をF教諭の報告から引用する。

H男「僕、虫が作りたい！」

保育者（初めてHくんから発信してくれた！これはチャンス、着手意識が克服できるかも！）

「いいね！虫ってたくさんいるけど、どんな虫が作りたい？」

H男「ヘラクレスがいい！」

保育者「おおへラクレス！」（ええっ！？）

「へラクレスって、どうやって作るの？・・・難しいぞと思いつつ）「かっこいいよね。先生も作ってみたいな。一緒に作ろう！」



この日のアセスマントシートは右のようになっていた。

図1 アセスメントシート(糊)

アセスメントシートをつけたことで自分の保育が一方的であることに気づき、子ども本人が思っていることに耳を傾けた結果、「髪が気持ち悪い」と話してくれたことで、反抗の理由が分かり、保育者の気持ちも穏やかにならなかったという。

また、「気持ち悪い」と感じるY男の本音を受け止めるとY男にも少し
安心した様子が見られ、F教諭は「糊を使うのは当たり前」とY男の行動
を知らぬ間に型にはめようとしたが自身の内面にも気づいたという。そ
してその1か月ほど後、Y男は糊が使えるようになった。

2) 宇號直角

アセスメントシートの習慣が定着して、子どもも向き合う時にチェック項目が思い浮かぶようになってきたころである。こんな対応をすればこの項目は高い点数が付けられるとか、この子どもに対してもこういう風に声掛けをすれば良いのではないかと毎日のアセスメントシートによる振り返りが、保育を変えていることを、保育者は実感はじめていた。

3学期に行つてお店屋さんごっこに向けて、どんな商品を作りたいかも子どもたちに聞いてみると、今までにはないたくさんの意見が出てきた。(アイスクリーム・ネックレス・おかし・ぬいぐるみ…). 子ども

そんな中、ふだんは製作を嫌がる日男が保育者のところへやつて来た。

みんな「ほんとだ～！」「ほくも作りたい！」「すごいね」

図2 アナズミントーシーント(虫)

実践事例1でのY男の経験を活かして、苦手意識を少しでも取り除けるようにしたいと思った。二人で材料を選び楽しんだことで、“特別感”を味わい、また、先生は僕の話をきちんと聞いていたんだを感じることができ、ヘラクレス作りを楽しむことができた。みんなの前で褒めることで自信に繋がった。その後の製作活動では自ら進んで仕上げていくことができるようになった。

ところがその日のアセスメントシートでは、友達同士の関わりが少なかつたことに気づき、次からはそれに気を付けて関わることにしました。

その結果、お店屋さんごっこでの達成感を味わうことができて、クラスが生き生きと楽しい雰囲気になった。さらに、子どもたちは残った品物を、未満児クラスの子どもたちにあげるために、自動販売機を作るという、保護者には考え付かなかつた展開を提案してきました。

友達と一緒に作る中で、材料を分け合ったり、作り方を教えてたり、出来たものを見せ合ったり…子供同士の関わりが多くなったと思う。また、子供主体で進めた結果、今まで当たり前のようになっていた行事の内

お店屋さんごっこまでの毎日はアスマントシートの評価が高く付けられていることにも気づいた。何より保育者自身が、毎日とても楽しかった。

実践事例3

しかし、そんな日ばかりではないようである。行事の練習が始まり、最初は子どもたちと楽しんで遊びの中で練習していったが、「みんなで合わせてする」段階になると、どうしてもそれぞれの自己主張が強くなり、他人の意見を聞かなくなったり、勝手に遊び始める子が出ていたり、その友達に対して「みんな、頑張っているのにおふざけしないで！」と怒る子もいるようになつた。

その結果、アセメントシートは図3のように散々な結果になって、筆者にSOSを出すことになった。

筆者は、「それはどうしてもやらないといけないことですか？」と聞いかけた。

「理念にあわない結果が続くのであれば、それは理念にあります。でも、それはしなければならないのか」と田中氏は語る。田中氏によると、理念とは「組織の運営方針や行動指針」であり、組織の運営方針や行動指針が組織の現状と合わないときには、組織の現状を改善するための行動指針を変えるべきだ。しかし、現状が変わらなければ、組織の現状を改善するための行動指針を変えるべきだ。

図3 アセスメントシート（パラバルーン①）と。先生方は、「目から鱗の助言」と言われるが、アセスメントシートが教えてくれていることしか言つてない。

しかしその後、子どもたちの好きな遊びを中心に演技を組み立てなおすと、図4の結果にたどりついた。

子供達が主体的に動けるようになつて来たことを喜びつつ	今日の體育活動の得意に勝ちして勝ったのがカッスメントスタート カッス 名前
----------------------------	---

③	タクシードライバー	乗客		運賃		出発地
		年齢	性別	料金	支払方法	
1	子供(幼稚園児)	10歳	男	2,000円	現金	○
2	中学生	13歳	女	2,000円	現金	○
3	高校生	16歳	女	2,000円	現金	○
4	大学生	19歳	女	2,000円	現金	○
5	社会人女性	22歳	女	2,000円	現金	○
6	社会人女性	25歳	女	2,000円	現金	○
7	社会人女性	28歳	女	2,000円	現金	○
8	社会人女性	31歳	女	2,000円	現金	○
9	社会人女性	34歳	女	2,000円	現金	○
10	社会人女性	37歳	女	2,000円	現金	○

図3 アセスマントシート（パラバルーン①）
「言」と言われるが、アセスマントシート
ではない。

しかしその後、子どもたちの好きな遊びと、図4の結果にたどりついた。

子供達が主体的に動けるようになつて来たことを喜びつつ

も、保育者の「協力する心を育む」というねらいが、子供達から主体性を奪ってしまいそうに思われる。しかし、この問題は、

なったことを入力し保存した。
保育者のもつ、『子供達の理想の姿』が、一方的に押し付けになってしまったのもしなりに何よりの訴訟が記録アセスメント

今日の個別会議の進捗に面からして課題に取り組むためのアセスメントシート		タスク	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録
		会員登録	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録
1	会員登録	○	○	○	○	○	○
2	会員登録	○	○	○	○	○	○
3	会員登録	○	○	○	○	○	○
4	会員登録	○	○	○	○	○	○
5	会員登録	○	○	○	○	○	○
6	会員登録	○	○	○	○	○	○
7	会員登録	○	○	○	○	○	○
8	会員登録	○	○	○	○	○	○
9	会員登録	○	○	○	○	○	○
10	会員登録	○	○	○	○	○	○

二

實踐事例 3

しかし、そんな日ばかりではないようである。

行事の練習が始まり、最初は子どもたちと楽しんで遊びの中で練習していったが、「みんなで合せてする」段階になると、どうしてもそれぞれの自己主張が強くなり、他人の意見を聞かなくなったり、勝手に遊び始める子が出たり、その友達に対して「みんな、頑張っているのにおふざけしないで！」と怒る子もいるようになった。

111111(12)

助言の先生の「みんな同じじやなくていい」という一言で、ふつと心が軽くなり、子供達の声に耳を傾け、「やりたいことをやってござらん」と見守る余裕が出た。

3. 考察とまとめ

- (1) アセスメントシートがもたらしたもの～K幼稚園における変化～
アセスメントシートをつけすることで毎日自分の保育を振り返り、より理念に近づけようとする実践は、大きく分けると三つの面で成果をもたらしと報告されている。

一つ目は、それまで若い保育者は、先輩たちの背中を見ながら必死に子どもたちに寄り添おうとする中で、日々のルーティンや年間行事に流されてしまいがちだったが、この年は、例年のようにやろうとか、周りのクラスと揃えようということではなく、園の理念に照らして自分の保育を振り返るようになった。

自分の保育を振り返って自分で評価するということは、自分を客観的に観察し、その結果に一喜一憂しながら、自ら工夫して次の日へと繋げていくことだった。「今日のあの場面はまずかったな」と反省し、「明日の朝一番にあの子に声を掛けよう」と思ったり、「明日はこうしてみよう」と、今まで考えたことのなかった視点で関わった時に、子どもからの予期せぬリアクションに、保育者自身が興奮を感じたと話してくれた。

二つ目は、中堅以上の保育者が、「ちかいのことば」の奥深さに気づき、歴代園長が一番伝えたかった「心の教育」に注視するようになつたことである。長い保育経験の中で様々なトラブルやハプニングを乗り越え、色々なノウハウを見つけながら歩んできて、多くの園児を卒園させたような保育者こそ、「この子の心は、今、育っていますか?」「私は今、この子と共に育っていますか?」と、自問自答し、謙虚になる必要を感じたといふ。大切なのは、目に見えないものの（理念）を見ようとする意志であり、経験

が妨げとならないためには、理念との照らし合わせは欠くことのできない作業であると認識された。

三つ目は、行事に対する見方が変わってきたことであるという。行事の準備や練習に取り組むときにアセスメントシートの項目が頭に浮かび、「あれ?これでいいのかな?」と思うことで、今まで何気なくこなしてきた行事に、「項目」を意識して関わることで、行事そのものが子ども主体へと変化していった。

「理念に沿った保育とは」と堅苦しく考えるわけでもなく、毎日チェックするだけのことなのであるが、自分たちの中に徐々にしみ込んで、考え方や保育を変えている。そして、今までと違う切り口で子どもと創り上げていく行事は、誰より保育者が楽しんでいたといふ。K幼稚園による研究発表後、いくつもの園がこのアセスメントシートを取り組みたいと問い合わせをしてきたという。一朝一夕にできることでもないが、地道に続けてゆきさえすれば、どの園でも理念に基づいた保育展開へと近づくことができる方法であることを実感している。

理念にあった保育ができたかを毎日チェックすることによって、保育者自身が明らかに自分の保育が変化してきたことは、昨年の実践でも以下のようによく報告されていた。

- ①毎日、自分の保育を理念に照らして振り返ることになる。
- ②どのように改善るべきかを指導されることはないが、自分でも高い点をつけたいので、理念にあった保育をするように心がけるようになつた。

そしてこれらの保育者たちの発見と成長は、K幼稚園教諭の以下のことがばにもみられる。
・「気持ち悪い」と感じるY男の本音を受け止めると、子どもは少し安

心した様子が見られ、次の活動が広がっていった。

- ・保育者がアセスメントシートを意識しながら発した“ことば”は、「いいね」というようなりげない一言であっても、子どもには自信にも喜びにもつながり、遊びが広がってゆくことを実感した。
- ・普段製作を嫌がる田男との関わりは、田男がいままでのお店屋さんで考えつかなかった田男の好きな「虫」を提案したことを受け、二人で材料を選び楽しんだことで、田男が“特別感”を味わい、また、「先生は僕の話をきちんと聞いているんだ」と感じることができ、ヘラクレス作りからお店屋さんごっこを楽しむことができたと思われる。
- ・子ども主体で進めていると、今まで当たり前のように進めていた行事の内容も変わっていることに気づいた。お店屋さんごっこまでの毎日はアセスメントシートの評価が高く付けられていた。
- ・アセスメントシートにチェックすることで、自らが子ども主体に変わることができた。

このK幼稚園の研究テーマは「まことの保育の実現」というテーマであった。しかし、その保育理念をアセスメントシートを使いながら実践に移してゆくと、そのK幼稚園の園の理念「まことの保育」は、「子ども主体」であったことにも気づくこととなっていた。

理念を頭ごなしに押し付けるのではなく、保育者一人一人が自分で自分の実践をチェックする中でそのことに気づいてゆき、その気づきへの対処もアセスメントシートが再度チェックしてくれるというこの方法は、まさに保育者の主体性を育成する方法でもあると言えよう。

K幼稚園の報告にあるように、先輩保育者の保育を見ながら見よう見真似で実践体験を積み重ねてゆくではなく、アセスメントシートを毎日つけることで、理念に基づいて自分の保育をチェックし、子どもの反応から学ぶ姿勢が身につく。若い先生方を指導することに時間を持けない現場において、このアセスメントシートを導入することは、保育理念の共有と保

育の質の向上に寄与するものと思われる。

- (2) アセスメントシートが目指すもの～「まことの保育」とのつながりにおいて～
 - では「子ども主体」がなぜ「まことの保育」に繋がるのかについて、別の視点から述べてみよう。

筆者はいくつかの園で年に数回の事例検討会を継続して行っている。筆者がそこに提示された子どもの事例に対してしていることは、

- ・その子どもの特性とそれ故の辛さ
- ・その辛さを軽減することが保育であり、保育者の役割であること
- ・軽減するための方策として考えられること
- ・その子に代わって通訳のように保育者に伝えることである。

すなわち、課題を持ったその子どもに変わると要求するのではなく、その子に関わる保育者が変わることがそのままを安らかせ、子ども自身の安心が、その子の持つ力を發揮する方向へと子どもを動かしてゆくのである。大事なのは、何かを教えたり、させたりすることではなく、その子どもを見守る保育者が、子どもが安心するために必要なことを、自らの行いの中で実現してゆくことの積み上げなのである。

あるときの保育スーパーイベントで、周りの関わりをすべて「否定」することで自分の身を守っていたある3歳児の女児が事例にあげられたことがある。「見ないで!」「来ないで!」「しないで!」「違う!」「しない!」という言葉が彼女から飛び交っていたし、他の子どもたちと一緒に遊ぶことはしなかつた。保育者も困り果て、「何度も言いませんでした」と言った。

筆者は、この子がどれほど傷つきを抱えているから、これほど自分に接近するものを警戒しないといられないのか、家族も含めて周囲が「自分の意に合わないことしかしない」と思い込んでしまうような彼女のこれまで

での人生だったことを想像してほしいと伝えた。そして、この子の安心のために園や担任が、何ができるかを紐解いて話し合った。この子の今の在りようを否定したり、強制的に何かをさせようとしないで、「そんなんに悲しいのか」「そんなんにも信じられないのか」「そんなんにも自分を守らなくては誰も守ってくれないと思っているのか」と受け取ってほしいと伝えた。

その4か月後、その園に訪れたとき、筆者はその子どもたちの変身ぶりに感動した。その子は他の子どもと一緒に筆者に近づいてきて、「見てて？」と折り紙をして見せ、「来て？」と筆者を誘つてタオルをカバンに入れるところを見せてくれた。今彼女は周囲を信頼し、自分が裏切られることないと安心できていた。

この間の保育者の関わりが、いかに丁寧な温かいものであったかを想像させる変化だった。1年前は全く参加しなかった運動会も、今年は参加して楽しんでいたという。本児の中から自ら自らを成長させる力が生まれただしきていることを実感した。

その時の園長（住職）が研修会のまとめとして言ってくれたことが、このK幼稚園での先生方の変化ともつながって受けとめられたので、ここに紹介する。アセスマントシートの先にあるものとして筆者は「子ども主体」だけでなく、園の理念という大きな思いに抱かれた「真宗保育・まことの保育」の実現を置きたいと思っている。最後にそれを述べて、本稿を終わりたい。

住職は、正信偈を引用されて、その日の学びを次のようにまとめられた。

法成菩薩因位時 在世自在王に所	觀見諸仙淨土因 國土人天之善惡
建立無上殊勝願 超經布有大弘誓	五劫思惟之攝受 重誓名聲聞十方

(正信偈)

一国の王であった法藏菩薩は、世自在王仏のお説法を聞いて、自分は生きといける全ての衆生を救いたいと思われました。そのためには最初に、救う衆生のことがわからないと救うことができません。そこで師仏にお願いし、二百十億の国々の人天（人間や天人）善惡を見ていきました（観見）。救われるべき衆生のいいところも悪いところも、喜びも悲しみも、全て見ていかれました。そして衆生に変わといつても変われない、ここまで来いといつても来るどころか逃げて回るものだと見抜かれました。

そこで出された結論は、衆生はその今まで、私が変わつて、私が動く仏となつてあなたに至るということでした。衆生に誓わせるのではなく、仏様が願いをおこし誓いをたてられたのです。

五劫という長い時間かけて考えぬかれ修行をされて、全ての徳も功德も備わった南無阿弥陀仏と耳に響く声の仏となりました。

阿弥陀様は衆生を救うに、十分に調べ上げた上で（観見）誓いを立てられました。そして、阿弥陀様は衆生を救うにおいて、衆生には悪を告げません。苦しみ悩む衆生に、お前のここが悪い、そこが悪いと告げている暇はない。

水に溺れているものに、落ちた理由を告げる暇はない。頑張れも聞こえない、投げた網にも掴まれないものには、私が飛び込んで救うしかないと誓われました。

阿弥陀様は衆生を救うにおいてはおっしゃらないのです。悪を告げず、そのまま救うのが阿弥陀様です。

今日の事例研究で私たちが学んだことは、まさにそのことであったと思います。

(長崎県大福寺住職 龍尾一洋師)

保育者が阿弥陀様になれと言いたいわけではない。しかし、真宗保育・まことの保育を実践するものとして、子どもの行動を悪としたり、保護者

に子どもの未熟さを訴えたり、もっとこうしようと指導したりするのではなく、その子の悲しみと苦しみの中に、保育者も自らを投げ入れ、その悲しみから這い上がる道を共にできることが、保育者の姿であってほしいと願う。

K幼稚園は「ちかいのことば」からのアセスメントシートで、保育が正信協の実践であることに気づいて行った。
コロナ禍で多くの園が行事の見直しをせざるを得なかつた。その時に、ただ感染防止を目指すのではなく、園の理念に立ち戻るアセスメントシートを導入することで、その園の原点に戻るきっかけとなるのではないかとういう気づきを本稿のまとめとしたい。

なお、本論文への掲載は、K幼稚園および大福寺保育園の承諾を得ていることを追記する。

引用・参考文献

- 1) 保育理念を実践に展開する方法の提案～保育理念を基にしたアセスマントシートをチェックすることによる保育者の変化～
2022 山田眞理子 九州大谷紀要 Vol.48 P77-95
- 2) クライスマネジメントの本質～本質行動学による3・11大川小学校事故の研究～
2021 西條剛央 山川出版社
- 3) 「構造構成的組織行動論の構想
一人はなぜ不合理な行動をするのか?ー」
西條剛央 早稲田大学web研究センター 早稲田国際経営研究 2011
Vol.42 P99-113
- 4) 保育理念の共有：その必要性と方法
宮田裕司 保育の友67 (6), 12-14, 2019-05
- 5) 保育理念をみんなのものにするために
小関靖子 ちいさいなかもま：保育者と父母を結ぶ雑誌 / 全国保育団